

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕事の内容	蔵敷公民館事業			
担当部署・課長名	中央公民館	課	蔵敷公民館	係 課長名 佐伯 芳幸

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。		施策番号	1-2	5-3
【施策名】生涯学習の充実 共に支えあう地域社会の確立		総合計画書 (ページ)	35	110

予算名	款 10	教育費	項 4	社会教育費	目 2	公民館費	事業 4	蔵敷公民館事業
-----	------	-----	-----	-------	-----	------	------	---------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)
	市民 →	芋窪・蔵敷地区に居住する市民の数(4月1日現在) 公民館の利用は地域で制限するものではないが、近隣住民の数とした。
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 地域で、学習の場に参加できる。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) ①公民館主催事業参加者 ②公民館施設利用者(公民館主催事業参加者を除く) ③定期利用グループ数(4月現在)
③ そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)	
	①利用者連絡会等開催 ②講座開催 ③イベント開催 ④施設の貸出 ⑤蔵敷公民館だよりの発行 →	①利用者連絡会等開催回数(利用連・利用懇・陶利連) ②講座開催回数 ③イベント開催回数 ④施設の利用率 ⑤蔵敷公民館だよりの発行回数

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
	対象指標	①の数値	人	10,137	10,131	10,095	
	成果指標	②の数値	人	① 1,570 ② 19,717 ③ 56	① 1,466 ② 20,807 ③ 52	① 1,477 ② 20,807 ③ 53	
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方					
	活動指標	③の数値	①回 ②回 ③回 ④% ⑤回	①23回 ②21回 ③4回 ④58.8% ⑤3回	①18回 ②18回 ③5回 ④58.8% ⑤3回		

3 経費	事業費(実績)	円	12,400,760	10,938,057	11,630,994	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源					
	一般財源	円	12,127,830	10,639,797	11,338,884	
	特定財源	円	272,930	298,260	292,110	
	(うち受益者負担)	円	99,930	97,260	94,110	
	人件費(目安)					
	所要人数(再任用以外)	人	2.0	2.0	2.0	
所要人数(再任用)	人					
職員人件費(再任用以外)	円	16,534,000	16,506,000	16,488,000		
職員人件費(再任用)	円					
事業費+人件費	円	28,934,760	27,444,057	28,118,994		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	昭和53年11月20日、市内4番目の公民館として開館。市民の生涯学習を目的としている。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	
	施設の貸出しについて、インターネット予約を平成27年10月から開始した。	

仕 事 の 内 容	蔵敷公民館事業			
担当部署・課長名	中央公民館	課	蔵敷公民館	係 課長名 佐伯 芳幸

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）			
	取り組んだ	取組手法	①②③⑤⑥ 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 事業や講座を実施するに当たり、市民の意見や企画などを取り入れていく。			
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容 自主グループ化するための講座を実施しても、若い世代が利用する保育室や調理室がないため、市民の要望に答えた内容を取り上げることに制限がある。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 保育付の講座をすることは難しいため、子育て世代を対象に親子で参加できる講座を企画し、実施した。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 今後も、子育て世代対象の講座を実施していく予定であるが、ニーズにあったものを実施していくことができるか検討する必要			
8 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 保育付講座としての開催は、公民館で保育室が設置されている公民館で計画的に実施し、保育室が設置されていない公民館においては親子で参加できる事業を実施していく。講座の参加者にアンケートをとり、ニーズにあった内容を取り入れる。			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。